

## 33度が猛暑だった頃を知っていますか？

若い方には信じられないと思いますが、今から約40年前は33度が出ると大騒ぎとなり「何という暑さだ！授業どころではない！」と生徒からは不満たらたら。37度が出て驚かなくなっている現代からすると、古き良き昔です。気象庁の記録を見ると、8月の最高気温月平均は1875年29.4度、1900年30.5度、1926（S1）年30.8度、1950年30.4度、1975年31.5度、2000年32.4度、2020年34.1度です。経年変化の実態はグラフで見ないとはっきりしませんが、おおよその傾向は示しているでしょう。この「地球の温暖化」に警鐘を鳴らしていた高校の先生たちは何人もいたと思いますが、S先生はその一人でした。S先生は授業で温暖化対策を教えるのはもちろん、県教委に対しても校舎屋上に太陽光パネルを設置すべきと早くから提言し、夏の要請行動で説明しました。校舎の屋根にパネルを設置すれば発電すると共に断熱になるという主張は、今では当たり前となりましたが、当時は少数意見でした。S先生は生徒への退職挨拶でもその話をし、「最高気温は年々高くなっている、ということは将来、38度、40度、42度ということになります。」と解説し、体育館で聴いていた全校生徒を戦慄させました。そして、それから20数年、予言は現実となりました。

地球の温暖化に対して人が取る態度は大きく3つです。1、「危機はない」ことにする、逃避型。2、「危機はわかるけれど仕方がない」とする悲観型。3、「危機だからこそ対策する」という希望行動型。

## 希望行動型で未来を変えていきましょう！

さて、先月号で「管理職評価」を話題にしたところ、さっそく管理職の方から「良いことはしましょう」という有難いお言葉をいただきました。管理職も教職員も希望を持って行動し、生徒にも希望を持たせることができれば、学校はすばらしい力を発揮すると思います。温暖化をめぐるっては、スウェーデンのグレタさんの行動をはじめ、様々な取り組みが続いておりますが、世界中で大勢の教職員が教育の力を信じ、行動しています。日本でも約10年前から先進的な都道府県では太陽光パネルを積極的に学校に設置し、環境教育に力を入れています。文科省も姿勢が随分、変わってきました。組合では今年度も夏季休業中に県教委に対して要請行動を行いますので、直接、意見交換してみたい、自分の学校の状況を知ってほしい、という方は参加してください。組合では教育研究集会を行い、環境教育の交流も行っております。希望を持って行動している仲間に触れるだけで展望と元気をもらえます。ご参加ください。

数年前には「絶対やる」とされてきた大学入試の「英語民間委託」「記述式」が各界からの意見、議論を受けて頓挫しました。「言ってもだめじゃん！」と悲観型にならず、みんなで行動しようではありませんか。夏の要請行動では、高校入試、免許更新、一時金差別支給、各種学校施設の改善などが話題となります。昨年の要請行動を機に早速、県が調査し冷房が設置された学校もあります。S先生のように論理的に冷静に意見を伝えていけば、たとえすぐに改善されなくても支持する人は各界で徐々に増え、賛同者がまたその主張を引き継いで要請していきます。香港の民主化運動に対する弾圧やマンマーの軍事政権に心を痛めている人は多いことと思いますが、希望をもって行動する人が増えれば事態が好転するのは世界史の通りです。頑張りましょう！

**高教組は教職員の労働条件改善のために頑張ります。  
ご支援・ご加入をお願いいたします。**

**群馬県高等学校教職員組合**

**TEL:027-231-2784/FAX:027-231-2787**

**Email: ghtu@educas.jp**

ホームページはこちら

<http://www.ghu.org/>

